

リフロー炉ヒートシンク洗浄テストレポート

2010.9.13 PICSIS 安達

洗浄液: 液量	-	リフロー炉ヒートシンク洗浄前の全体画像	浸け置き状況
洗浄工程: 浸置き【30分、2時間後、6時間後】→水すすぎ→自然乾燥	エコフラッシュ: 40L		
エアー流量	-		
液温	常温		
対称ワーク	リフロー炉ヒートシンク		

洗浄前状況

BOX側①	BOX側②	フィン側③	フィン側④

洗浄工程: ワーク対象物が長い、フラックスの汚れレベルから BOX側①、フィン側③の浸け置き洗浄を実施。

洗浄液浸水状況	洗浄液浸30分後 BOX側①	洗浄液浸30分後 BOX側①	洗浄液浸30分後 フィン側③

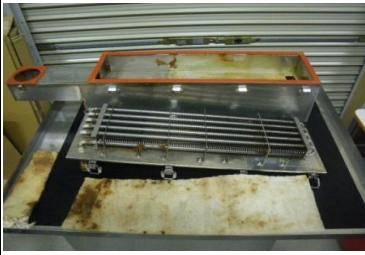
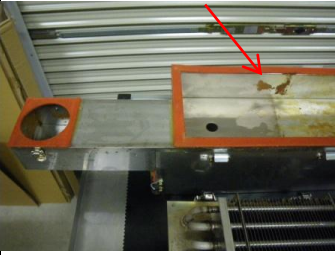
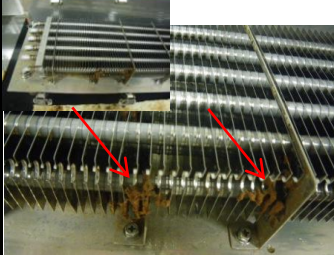
30分浸置き⇒水すすぎ後

全体	BOX側①	フィン側③	結果
			BOX側のフラックスの薄い所は30分の浸け置きで落ちている。厚盛部分は、フラックスに浸透するのに時間がかかり、フィン内部の固着が落ちていない状態。


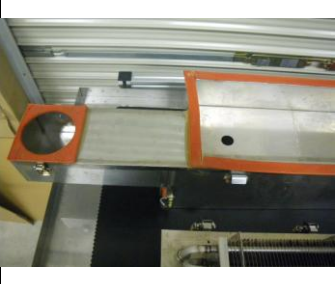
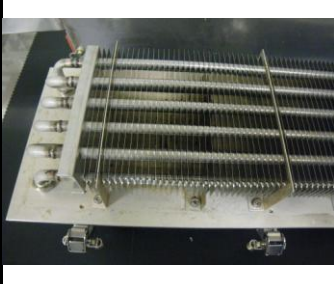

2時間浸置き⇒水すすぎ後

全体	BOX側①	フィン側③	結果
			BOX側① 矢印の厚盛部がまだ落ちていない。フィン側③厚盛部分も徐々に落ちてはいるが、まだ残っている。フィン内部の固着部も同様。洗浄液の浸透に時間がかかる様子。

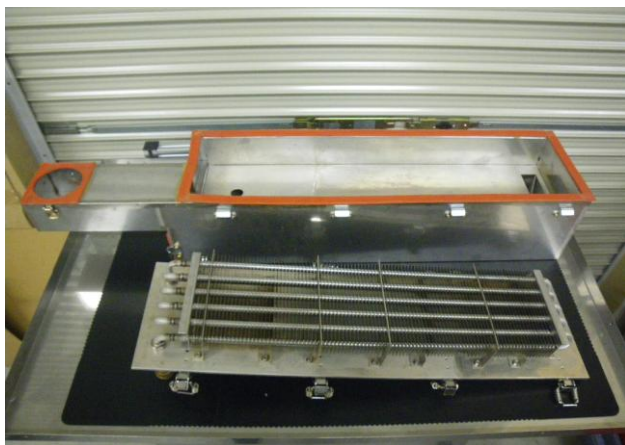
4時間浸置き⇒水すすぎ後

全体	BOX側①	フィン側③	結果
			BOX側① フィン側③矢印の盛部分が徐々に落ちてはいるが、まだ残っている。これ以上、浸け置き洗浄の場合、時間ももっと必要なため、バブリングで液を陽動させ、フラックスの洗浄状態を確認する。

2時間バブリング洗浄後、擦り洗い⇒水すすぎ後

バブリング状態	BOX側①	フィン側③	フィン側③
			

洗浄テスト結果



今回の洗浄テストで、薄く付着しているフラックスは短時間20～30分で十分落ちますが、固体化しているフラックスは6時間浸け置きでも液が浸透せず、落ち切れない状態でした。  
 現実作業として洗浄時間を考えると、洗浄液をバブリングで揺動することで大部分の汚れを落とし、固体化している箇所のみ掻き落すことで大幅に洗浄時間短縮することが可能となります。特にフィン内部のフラックス固着にはブラシ等が入らない為、バブリングが有効な方法と思います。  
 (接着されてあるパッキンは剥がれてしまう状態になりますので、再接着が必要となります。)



Create the next future

株式会社 PiCSiS (ピクス)

〒981-3627

宮城県黒川郡大和町吉岡東3丁目2番18号C棟

TEL022-345-2441 FAX022-345-2442

center@picsis.co.jp